

【50】 “ ワンド ” って何？

河川の自然環境への関心が高まり、河川法が環境重視の観点から改正された平成9年ごろのことです。“ワンド”という、あまりというより全く聞いたことのない名称が主として関西の生物系の人たちから発せられ、使ってみれば便利なので徐々に広がり、今では生態工学の論文にもよく登場する普通の単語になりました。

「ワンド」は淀川やその支川の本津川が発祥のようです。河川の低水の流れを固定するため、河岸から低水路の中へ向けて突き出した低い突堤状の構造物を水制といいます。クシの歯のように並んだ多くの水制の間の水面は、本流の流れが入りこまず穏やかな水域となっているので、魚など生物にとって都合の良い環境となり生物相が豊かなのです。

言葉の語源は明治時代の港湾工事でオランダ人技師デレーケが使った“VAN-DAMMN”（突堤）のようですが、淀川や河川の水制にも使われたらしく、それが日本人には“ワンド”と聞こえたというのです。

なお、ワンドに砂洲がついて本流から切り離され池のようになった閉鎖水面は“たまり”といっています。（これは純日本語でしょう。）マニアックにいうとワンドはカタカナで書き、たまりはひらがなで書くのだそうです。

何事も東京発になってきた現代において、関西発の河川用語が登場したというのは快挙といえるでしょう。

（参考）

『わんどの機能の保全・創造』 平成11年3月、河川環境管理財団 大阪研究所